



アフリカの若者のための産業人材育成 ーABEイニシアティブー

2025年4月
独立行政法人 国際協力機構(JICA)
アフリカ部

日本企業のアフリカビジネスを手助けする「架け橋」

日本企業がアフリカビジネスを検討/着手する際の悩み

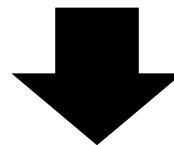
一度アフリカを訪問してみたいが、現地に頼れる人がいない。。

現地で自社の製品が売れるか実証してみたいが、派遣できる社員がいない。。

自社の製品をアフリカで販促するための現地ビジネスパートナーが獲得できない。。

アフリカに全く土地勘がなく、どのような状況なのか全くわからない。。

社内にアフリカ担当の部署を作ったが人材確保のルートが分からない。。



日本と現地の「架け橋」としてのアフリカ留学生

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ 「修士課程およびインターンシップ」プログラム

Master's Degree and Internship Program of
AA**f**B**u**s**i**n**e**s**s** **E**E**d**u**c**a**t**i**o**n Initiative for Youth (ABE Initiative)

目的

- アフリカの成長の糧となる産業人材の育成
- 日本とアフリカのビジネスを繋ぐ**架け橋**となる人材の育成

アプローチ

- 日本政府と産業界の共同プログラムとして、修士課程での就学と**企業でのインターン**を実施
- 長期留学により日本社会や企業文化などに理解を持ち、日本らしい実践的なビジネスのノウハウを持つ人材を育成

実績

受入人数
約1,900人
(2014-2024)

日本企業就職者
200人以上
(2024.8時点)

インターン協力機関
約430機関
(2024.12時点)

国別受入実績

これまでアフリカ54か国から受入実績あり(24年度は28か国)

国名	累計	24年度	国名	累計	24年度	国名	累計	24年度	国名	累計	24年度	国名	累計	24年度
ケニア	217	9	ウガンダ	49	7	ベナン	18	3	エスワティニ	10	0	ギニアビサウ	5	0
ナイジェリア	153	21	コートジボワール	47	5	アルジェリア	17	1	ギニア	10	2	アンゴラ	4	0
モザンビーク	149	7	ザンビア	41	2	ガンビア	17	0	ガボン	8	0	モーリシャス	4	0
南アフリカ	143	0	マダガスカル	33	1	ナミビア	16	0	ニジェール	8	0	サントメ・プリンシペ	4	0
エジプト	117	5	チュニジア	33	5	ジンバブエ	15	1	シエラレオネ	8	0	セーシェル	4	0
タンザニア	112	5	マラウイ	32	0	ボツワナ	13	1	ジブチ	8	1	赤道ギニア	4	0
モロッコ	95	5	カメルーン	29	2	ソマリア	11	1	リベリア	7	1	チャド	4	1
エチオピア	90	3	南スーダン	22	0	レソト	11	1	エリトリア	7	0	カーボヴェルデ	1	0
セネガル	79	0	スーダン	21	0	リビア	10	0	モーリタニア	6	0	中央アフリカ	1	0
ルワンダ	64	5	コンゴ民主共和国	19	0	ブルンジ	10	0	マリ	6	0	コモロ	1	0
ガーナ	61	13	ブルキナファソ	18	1	トーゴ	10	1	コンゴ共和国	5	0	累計合計:1887人 24年度: 110人		

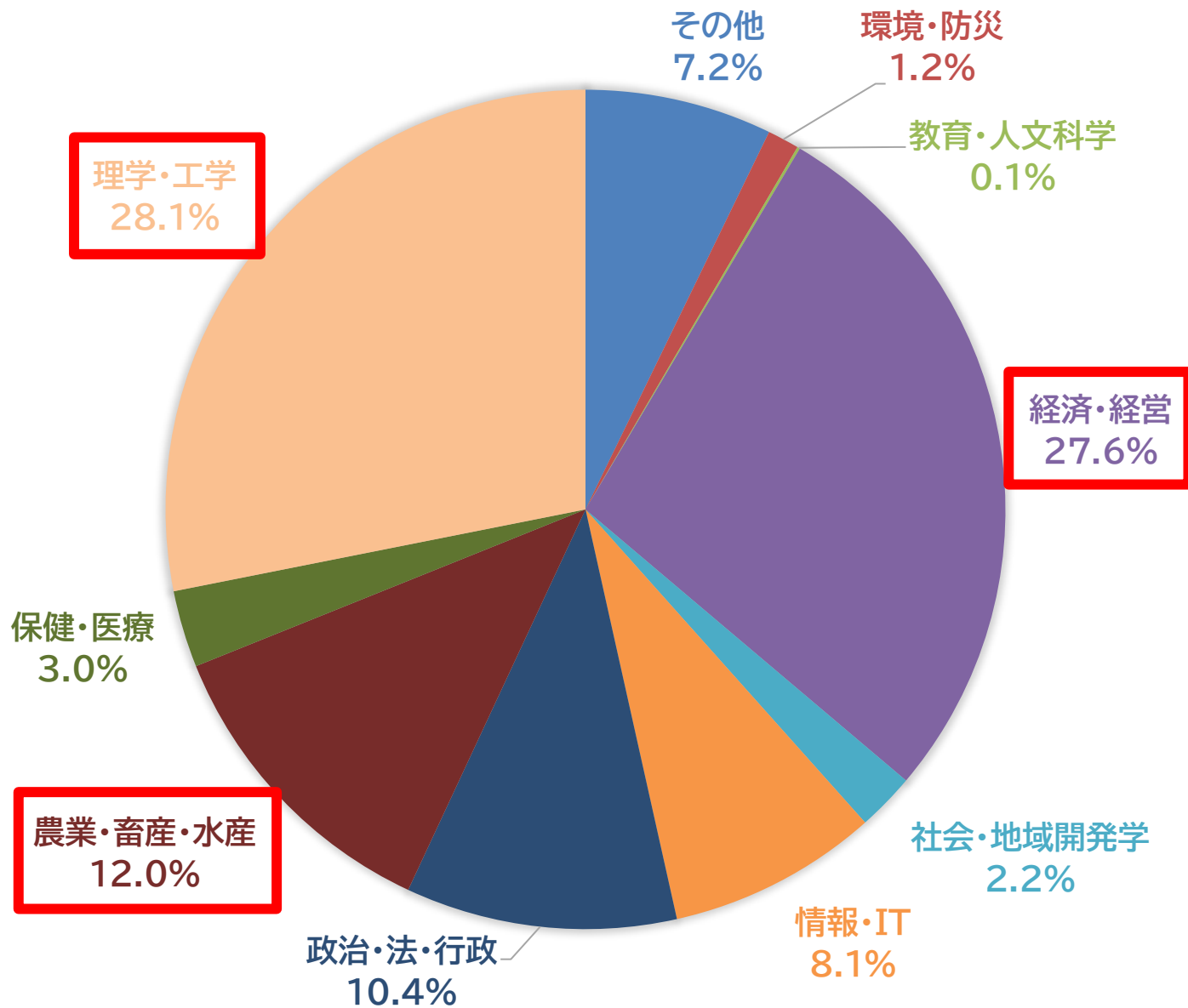
大学別受入実績

これまで全国87大学で受入実績あり

大学名	累計	24 年度	大学名	累計	24 年度	大学名	累計	24 年度	大学名	累計	24 年度
国際大学	221	20	愛媛大学	29	3	龍谷大学	10	0	横浜市立大学	5	0
神戸情報大学院大学	133	7	帯広畜産大学	28	0	関西大学	10	0	豊橋技術科学大学	4	0
同志社大学	87	4	熊本大学	27	3	京都工芸繊維大学	10	0	明治大学	4	0
立命館アジア太平洋大学	84	11	山形大学	26	5	東京国際大学	10	3	高知大学	4	0
早稲田大学	77	1	佐賀大学	25	0	慶應義塾大学	10	0	北陸先端科学技術大学院大学	3	0
立命館大学	54	2	東京大学	25	0	東京海洋大学	9	0	東京情報大学	3	0
筑波大学	50	0	名古屋工業大学	24	3	東京医科歯科大学	9	0	奈良先端科学技術大学院大学	3	0
立教大学	47	6	東北大学	23	0	国際基督教大学	8	0	九州工業大学	2	0
足利大学	46	1	上智大学	22	2	埼玉大学	7	0	群馬大学	2	0
芝浦工業大学	46	1	横浜国立大学	20	0	長岡技術科学大学	7	0	東京都市大学	2	0
北海道大学	44	3	東海大学	17	1	大阪大学	7	1	北九州市立大学	2	0
長崎大学	42	1	島根大学	16	0	宮城大学	7	0	県立広島大学	2	0
京都大学	40	1	香川大学	15	0	神戸大学	7	1	岐阜大学	1	0
広島大学	39	5	宮崎大学	14	0	工学院大学	6	0	金沢工業大学	1	0
東京農業大学	36	0	麗澤大学	14	0	岡山大学	6	1	金沢大学	1	0
東洋大学	35	1	法政大学	14	1	聖路加国際大学	6	2	国際連合大学	1	0
九州大学	35	2	三重大大学	12	0	徳島大学	6	0	信州大学	1	0
関西学院大学	34	4	山口大学	12	1	鳴門教育大学	6	3	政策研究大学院大学	1	0
名古屋大学	32	0	東京工業大学	11	0	山梨大学	5	0	石川県立大学	1	0
琉球大学	31	0	東京農工大学	11	0	秋田大学	5	1	中央大学	1	0
新潟大学	30	0	鳥取大学	11	0	鹿児島大学	5	1	北見工業大学	1	0
名古屋商科大学	30	2	宇都宮大学	11	6	福井大学	5	0			5

大学院での専攻内容

※2014-2024年度の累計



ABEイニシアティブの背景

- ✓2013年6月のTICAD VIにて、安倍首相が発表した「**5年間でアフリカの若者1000人へ留学・インターンシップの機会を提供する**」というコミットメントが発端。
- ✓2014年から第1バッチの受入を開始し、現在2025年度入学予定の第12バッチ受入に向けた募集・選考を実施中。



▲安倍元首相によるABEイニへのコミット表明(TICAD V～7)

TICAD V (2013年6月)

「アフリカから日本へ学びに来る若者のため、大学や大学院での教育に加え、日本企業でインターンとして働く機会を同時に提供するものです。規模は、5年で1,000人です。」



- ✓TICAD V支援策の産業人材育成3万人の一部として実施。
- ✓従来より実施されている実務者レベルの研修・プロジェクト等に加えて、日本企業がアフリカで経済活動を進める際のアフリカとの架け橋となる人材を育成。

TICAD VI(2016年8月)

「ABEイニシアティブに、今回、新機軸を入れます。育てたいのは、将来の職長、工場長。現場の指導者たちです。3年間で、約1,500人育成します。」

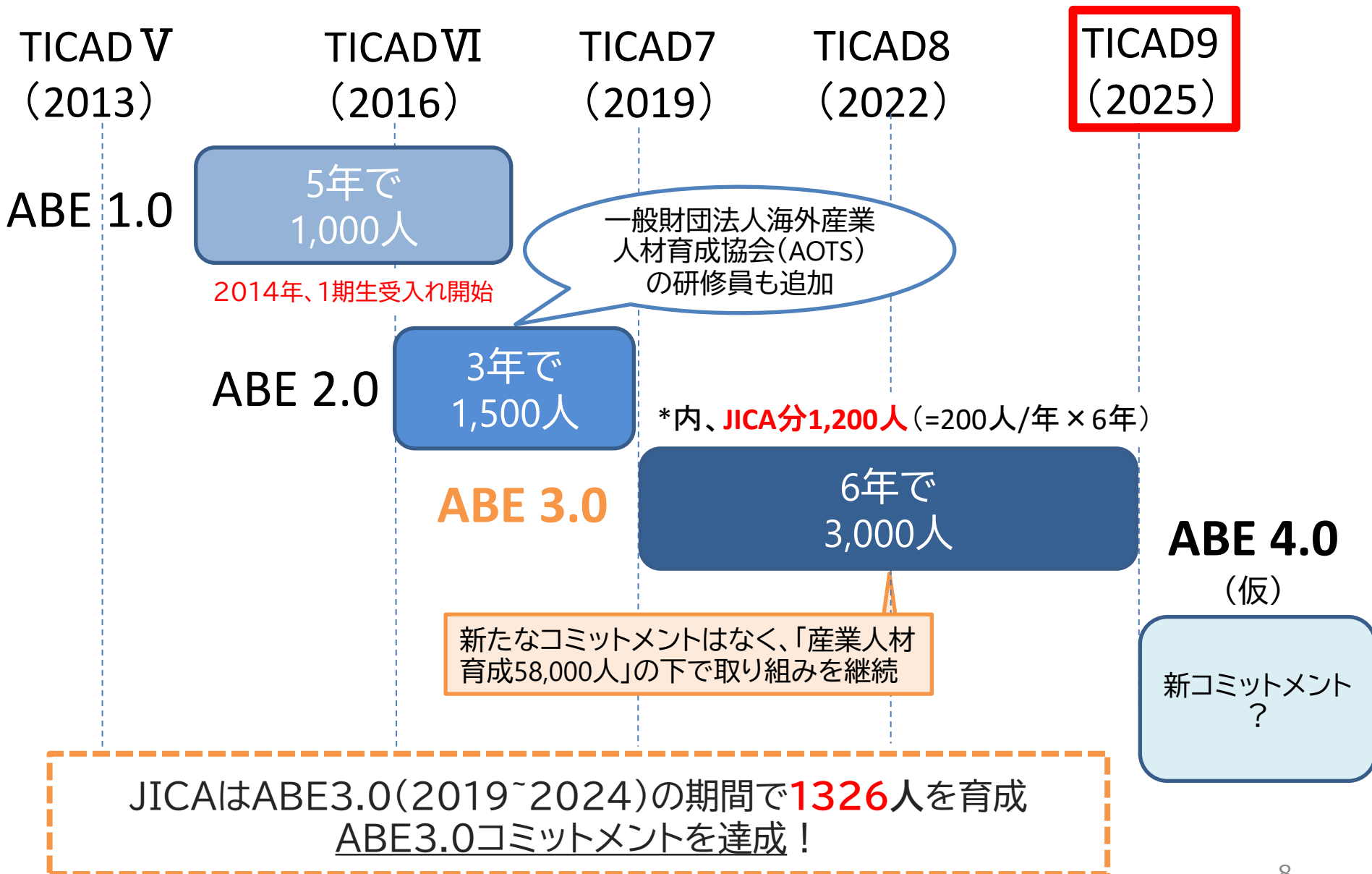
※JICAでは1,500人のうち、600人分を担当。残りの900人分は経産省等の事業でカバー。

TICAD 7(2019年8月)

「ABEイニシアティブは、日本企業とアフリカの確かなブリッジなのです。New TICADは、ABEイニシアティブ3.0を始めます。日本企業の、一層頼もしい先導者となってくれるのを願って、今後6年、3000人の養成を目指します。」

ABEイニの受入目標人数は
首相スピーチで発表される
コミットメントに紐づいている。
TICAD V, VI, 7のそれぞれにて
コミットメントを発表。
今年TICAD9でも新コミットメント
が発表される可能性高。

これまでの変遷



ABE修了生の進路調査(2022年8月)に基づく分析

※アンケート対象:2014~2018年に受け入れた1,181名。このうち約640人が回答。

全体の約7割がABEイニシアティブを契機にキャリア転換

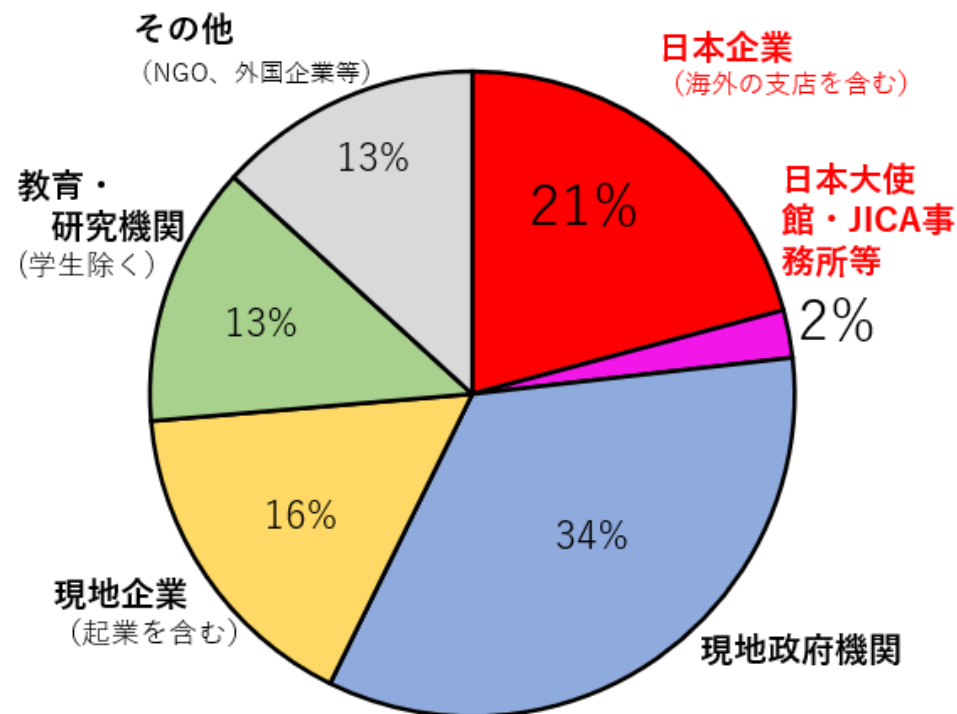
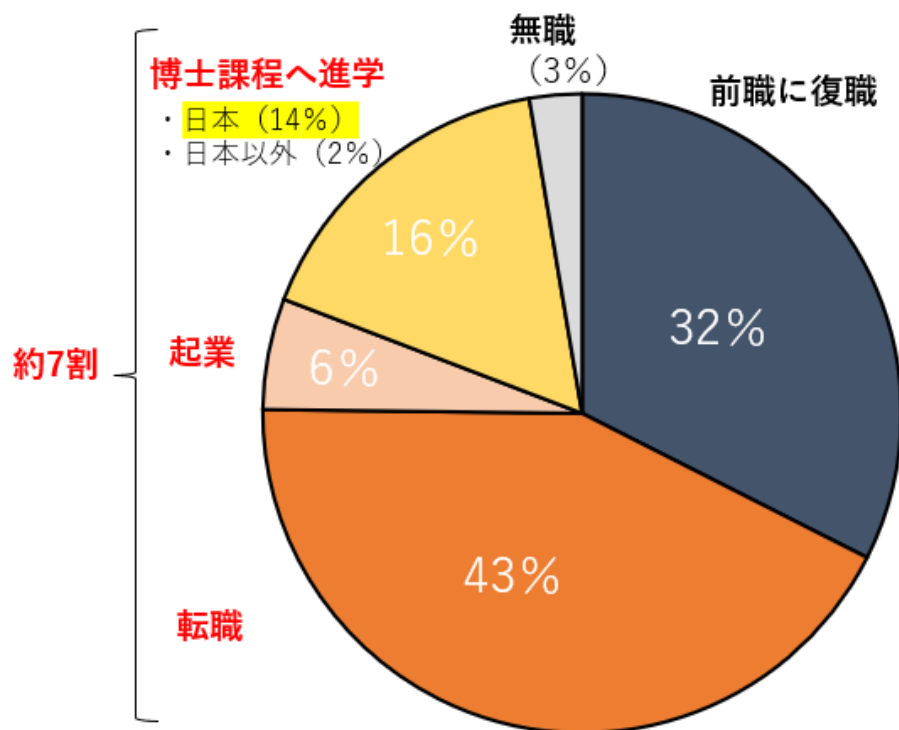
■プログラム修了後、
14%が日本の博士課程に進学

■就労者のうち23%が日本企業等に所属

【修了後の進路】

【現在の所属先】

(※学生などを除いた割合)



ABE修了生の進路調査(2022年8月)に基づく分析

全体の約8割が日本の組織と繋がりがある

※「日本の組織」：企業、教育・研究機関、政府機関

※調査質問において「繋がり」の定義を明確にしていない

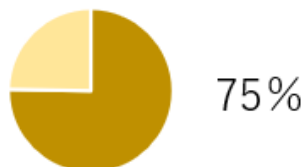
■日本企業・日本政府機関以外の所属者も、その約8割は日本の組織と繋がりが
ある

■日本企業・日本政府機関の所属者も含めると、
全体の約8割が日本の組織と繋がりが
ある

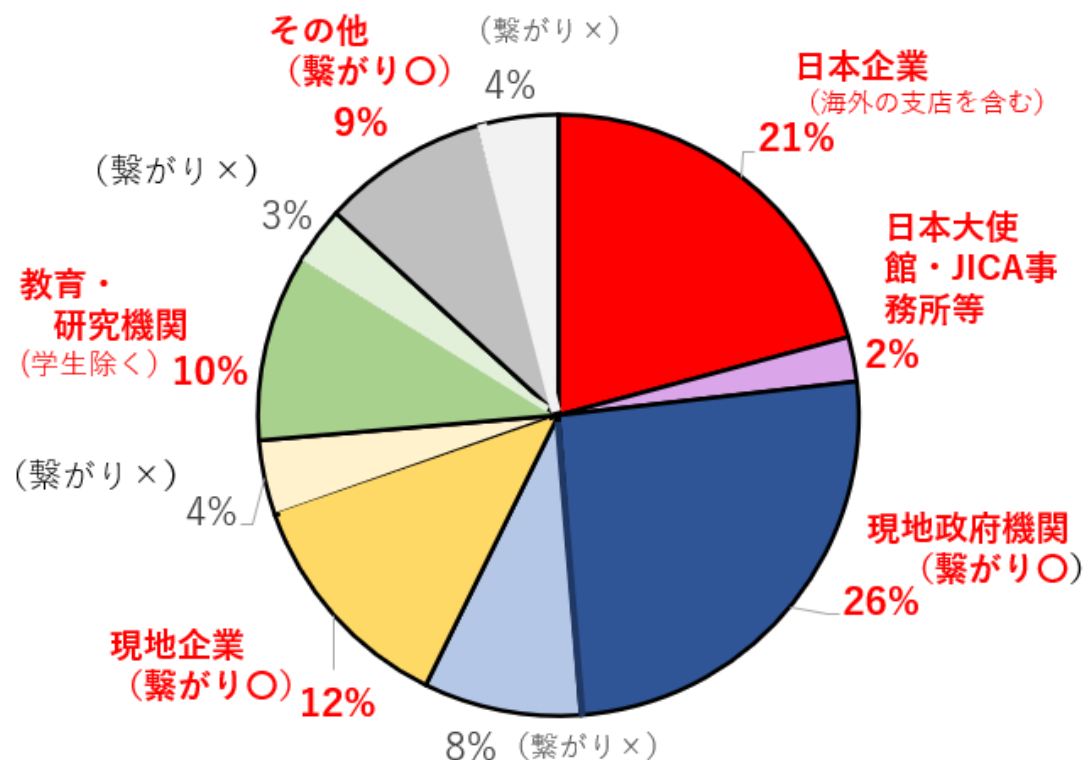
現地政府機関



現地企業
(起業を含む)



教育・研究機関
(学生除く)



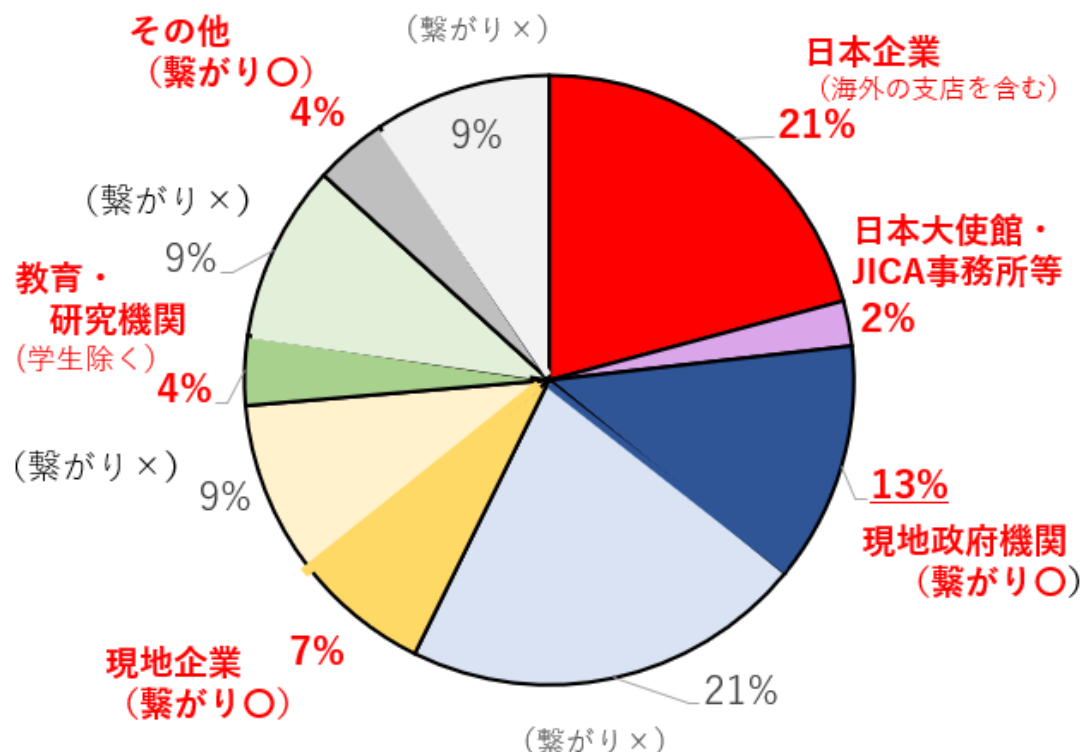
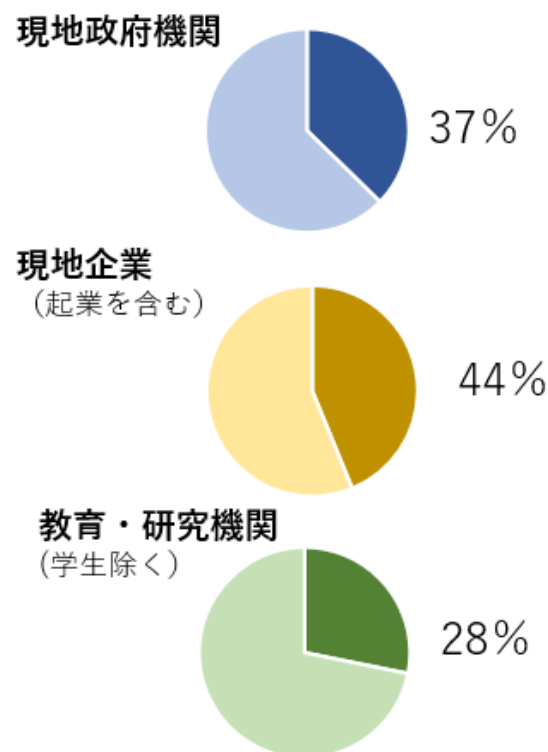
ABE修了生の進路調査(2022年8月)に基づく分析

全体の約5割が日本の企業と繋がりがある

※調査質問において「繋がり」の定義を明確にしていない

■日本企業・政府機関以外の所属者も、
その約3－4割は日本企業と繋がりがある

■日本企業・政府機関の所属者も含めると、
全体の約5割が日本の組織と繋がりがある



「架け橋」人材の事例

母国へ帰国
・第三国渡航

- 現地日系企業に就職
- 日本企業のパートナーとなっている現地企業に就職
- 起業し、日本企業のビジネスをサポート
- 起業し、日本の企業とビジネス連携
- 日本の現地政府機関(大使館、JICA、JETRO等)に就職
- 現地政府機関に復職し、政府の立場から日本企業をサポート

日本で滞在

- 日本企業等への就職
- 日本の博士課程へ進学、研究員として活躍

「架け橋」人材の事例

母国へ帰国
・第三国渡航

- 現地日系企業に就職
- 日本企業のパートナーとなっている現地企業に就職
- 起業し、日本企業のビジネスをサポート
- 起業し、日本の企業とビジネス連携
- 日本の現地政府機関(大使館、JICA、JETRO等)に就職
- 現地政府機関に復職し、政府の立場から日本企業をサポート

日本で滞在

- 日本企業等への就職
- 日本の博士課程へ進学、研究員として活躍

現地日系企業に就職(タンザニア)

- モシン氏はヤマハ発動機のインターンに参加し、帰国後は同社のグループ会社で、ITC技術を駆使した、自動二輪のラストマイル配送事業を主導、Eコマースをラストマイル物流で支えて、経済活動の活性化に貢献しています。
- ◆ モシン氏は、2018年にABE5バッチ留学生として来日、立命館アジア太平洋大学でMBAを取得。ヤマハ発動機でのインターンを経て、帰国後は同社のグループ会社CourieMateに入り、東アフリカ地域の新事業開発のトップとして、**タンザニアやウガンダの主要都市部でラストマイルの配送事業を推進し、東アフリカでのEコマースの可能性を拡大しています。**
- ◆ 本事業では、モバイルアプリや配送状況の追跡アプリの開発で**技術者を雇用**、また配送のために**自動二輪の地域ドライバーを雇用**、物流面でEコマースを支えることで、**中小のEコマース事業者の機会創出・活動拡大に貢献**しています。
- ◆ 将来的には、医療品や生鮮品、生活必需品等を、電動オートバイで都市部以外の地方でもラストマイル配送を提供し、**近隣諸国においてもさらなる雇用創出、経済活動の活性化に貢献していきます。**

Mr. Mohsin Aliasger Saifuddin

バッチ	第5バッチ(2018年9月～2020年11月)
出身国	タンザニア
大学	立命館アジア太平洋大学 経営管理研究科
インターン先	YKK、ヤマハ発動機
応募時所属先	A+ Baby's Collection (ABC) Zanzibar College of Business & Management
現在所属先	CourieMate



JICAイベントで講演するモシン氏



タンザニアのCourieMate社のデリバリースタッフ



起業し、日本企業とビジネス連携(モザンビーク)

来日中

日本でコインランドリーに出会う

滞在中、日本にはたくさんのコインランドリーがあることに気づき、アフリカでは珍しいものの、コインランドリーを広げることは可能だと確信しました。世界でフランチャイズ展開する日本企業を支援するアセンティアホールディングスにその思いを伝え、同社でのインターンシップを行いました。日本の様々なコインランドリー・メーカーやビジネスの方法を教えてもらいました。

修了後

ABEイニシアティブの卒業生のネットワークを活用し、アフリカ全土への拡大に向けて邁進中

モザンビークに戻り、アセンティアホールディングスや日本のメーカーと協力して、アフリカにコインランドリーを拡大するプロジェクトに取り組んでいます。まずはモザンビークで1号店が開店します。清潔な衣類を身につけることは人々の健康維持に繋がります。また、服の手洗いにかけていた時間を勉強など別のことに使えるようになります。ABEイニシアティブ修了生のネットワークを活用して、他のアフリカ諸国への展開を目指しています。



Mr. Sergio Elidio Morais

セルジオ エリジオ モライス



モザンビーク

バッチ	第8バッチ (2021年秋来日)
大学	国際大学国際関係学研究科
インターン先	株式会社フジタ、 株式会社アセンティアホールディングス
応募時所属先	Unique Clothes (自身で起業)、 Cle Enterprise (現地民間企業)
現在所属先	Unique Clothes (自身で起業)、 Cle Enterprise (現地民間企業)



日本企業関係者と打ち合わせをする
セルジオさん(中央)



コインランドリーをアフリカで展開すべく
活動している



日本企業に就職（コートジボワール）

- **トレヴォ氏**はABE7バッチ留学生として来日、母国の若者向けに奨学金情報を検索できるスマートフォンアプリの開発ほか、日本企業入社後はさらにシステム開発のキャリアを積み重ねながら、将来は母国の交通システムの開発を目指しています
- ◆ 母国でソフトウェアの開発に携わるトレヴォ氏はABE7バッチ留学生として来日。経済的に厳しく留学情報を入手することが困難な母国の若者のために、**奨学金情報をより簡単に検索できるスマートフォンアプリを開発**、次世代の**日本とアフリカのネットワーク創出に貢献**しました。
- ◆ 2023年には**パナソニックコネクタ社の研究開発部門に採用**され、生産性と業務効率を向上させるための機械学習プラットフォームを構築中、コストと利益の分析をすることで、マネジャーや経営者が最適な判断ができるようにするシステム開発に取り組んでいます。
- ◆ 同社でのシステム開発の専門技術とネットワークを活かし、**将来は母国の交通システムの開発を目指し、人々の安全な生活に貢献することを目指しています。**

Mr. AMEDAYENOU Trevor Christian

バッチ	第7バッチ(2020年10月～2023年9月)
出身国	コートジボワール
大学	名古屋工業大学・工学研究科
インターン先	スケールアウト株式会社
応募時所属先	IMPACT TECH(民間)
現在所属先	パナソニックコネクタ(株)



日本企業の評価

【プログラミング教育を提供するスタートアップ企業】

- ABEイニシアティブは、日本とアフリカを人と人との接点で強固につなげる欠かせないインフラと評価。人のつながりでビジネスは始まり、**信用できる人材**であれば国籍や言語は問わずに人は親交を深める。

【ソーラー電池等を製造・販売する企業】

- **現地のパートナーづくり**として役立っている。ABEイニシアティブなくして、現地のパートナーづくりはできないと言っても過言ではない。

【排水処理に関するビジネス展開をする企業】

- インターンの受け入れが海外ビジネス展開に大きな変化をもたらしている。インターン採用が各国企業との連携協定(MOU)や、インターンの留学先の**大学との情報共有・共同研究**に繋がっている。

【IT企業A】

- 新興市場としてのアフリカの可能性は理解しつつ、アフリカでビジネスや拠点が一切ない。アフリカのことを知っている社員もおらず、アフリカ展開の可能性を検討するだけという段階で、専門的な人材を雇うことが難しい。ABEイニシアティブのインターン受け入れは、**アフリカ市場の入り口**を探すという意味で最適。

【IT企業B】

- (アフリカでのビジネス展開が社内で検討される段階には至っていないものの)受入に関わった社員の話を聞くと、**社員の社会貢献モチベ・後輩育成モチベ**がABE留学生受け入れによって満たされている。当社の**ダイバーシティ**にも貢献している。



JICAのTICAD9に向けた取り組み(案)

Co-create innovative solutions with Africa

共創により、アフリカも日本も元気に



JICAが取り組む3つのアプローチ

①若い活力で共創

双方向人材開発プログラム
「TOMONI Africa」の創設

②革新的解決を追求

DX/GX/AI/宇宙技術の活用
TICAD人間の安全保障アジェンダ

③国際協調の基盤強化

AU大陸アジェンダ
アフリカとアジアの共創

JICAが取り組む10の重点アクション

次世代の担い手育成



社会

- 1)革新的解決を支える人材育成(教育、保健)
- 2)アフリカと日本を繋ぐ高等教育「頭脳循環」
- 3)女性・若者のエンパワメント



経済

幅広い成長の実現

- 4)経済統合の推進
- 5)ビジネス促進・環境整備、DX/GX
- 6)食料システムの強靱化
- 7)生活基盤整備(街、エネルギー、水)



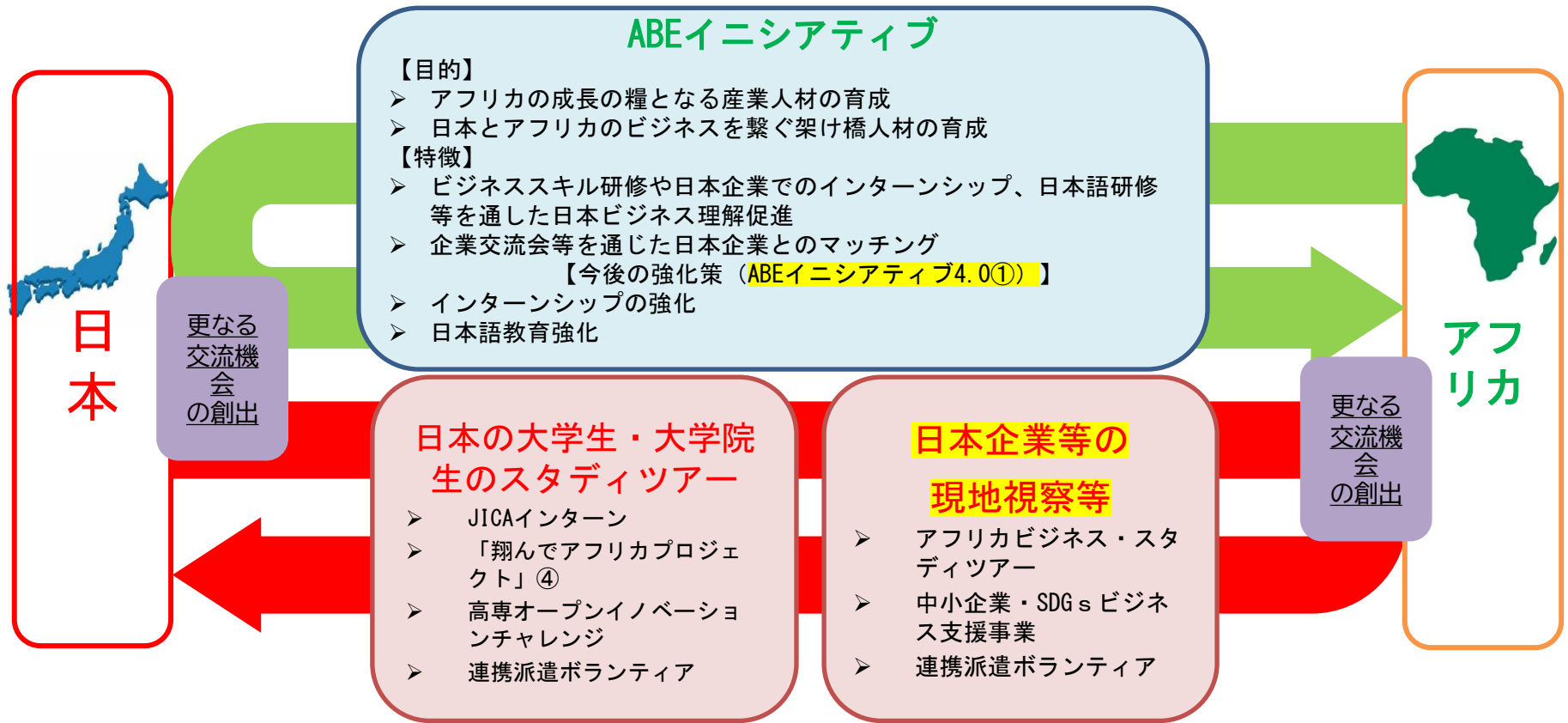
平和
&
安定

信頼関係の醸成

- 8)平和で強靱な社会と尊厳ある暮らしの実現
- 9)気候適応策の強化
- 10)人道・開発・平和ネクサス

TOMONI Africa (仮称)

ー日本・アフリカ間の共創を促す「架け橋人材」の育成ー



「JICAアフリカ・ホームタウン」②

アフリカとの関係が深い自治体をホームタウン認定し、TICAD9にて「JICAアフリカ・ホームタウン・サミット」を実施し、好事例を共有し、地方自治体のアフリカへの関心を高める。

「日本・アフリカユース・キャンプ」③

ABEイニ生等JICA長期研修員と日本の青年がJICA国内センターで数日間寝食を共にし、特定テーマについて議論。⇒①次世代グローバルリーダーの育成、②人的ネットワークの構築に貢献。

参考「ルワンダビジネス・スタディーツアー」
2024年2月、きらぼし銀行との共催で開催。9社12名参加。ABEイニ修了生との意見交換の他、関係政府機関や現地企業等を視察。民間ではアボが取れない政府機関等との面談は特に有意義との反響あり。

まずはインターン受入れ希望登録を！

JICAウェブサイト内のABEイニシアティブサイト

■インターン実施概要 ■インターン希望登録用のアンケート



※アンケート回答後、インターン申込→マッチング→実施
(アンケート回答をもってインターン実施が確定するものではありません)

本件お問い合わせ先：
JICAアフリカ部計画・TICAD推進課
メール：abe2@jica.go.jp